2018年（平成30年）
5月22日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
（毎週火曜日発行）

第3289号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京支局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

今号の特集

▷機能性・高付加価値飲料特集 ④～⑤面
▷ペットフード特集 ⑥～⑨面

「味の素®」は、うま味調味料です。さとうきびの糖蜜を発酵させてつくっています。

無糖炭酸飲料

市場8年で3.6倍に拡大

今後飲用習慣の定着がポイント

無糖炭酸飲料（炭酸水）市場は、09年は六四五億円（富士経済調べ）であったが、17年は二三二七億円と8年間で3.6倍に拡大。今年に入っても主要メーカーの相次ぐ大型商品の投入やリニューアル、TVCM等積極的な販促展開が見られ売場露出も拡大、市場はさらに伸長する見方が強い。

今後、無糖炭酸飲料は〝直接飲むスタイルの定着〟が大きなポイントとなる。原材料がシンプルな分、差別化が難しい商品であり各社の魅力あるブランド構築やマーケティング、繊細な味覚面の差別化など、より高度な付加価値が求められる。

今年度の主要各社の取組みとして――

〈アサヒ飲料〉炭酸水No.1ブランド「ウィルキンソン」は1～4月販売数量が16％増で推移。5月単月の生産計画を前年の4割増とする事を発表した。今年は〝辛口〟の〈タンサンドライ〉を4月に発売。また〈ジンジャーエール〉〈トニック〉を幅広い用途に対応すべく、瓶からPETボトル容器に変更した。4月からはDEAN FUJIOKAやシド・カフカ起用のTVCMなど広告展開も実施している。

〈コカ・コーラシステム〉「カナダドライ」から炭酸の強い刺激とキレのあるおいしさにこだわった「ザ・タンサン・ストロング」「ザ・タンサン・レモン」を3月に発売。

5月29日には早くも「ザ・タンサン・アップルミント」を新発売する。販促展開として、注目の俳優・竹内涼真起用のTVCMを大量投下するなど、先ずは新ブランドの認知拡大に努めている。

〈サントリー食品インターナショナル〉4月に「サントリー南アルプス」ブランドから〈スパークリング〉〈同レモン〉を新発売。従来品に比べガス圧を高めたほか、光沢あるラベルや従来品と同じ角度で傾けると20㎖程度多く口に入るオリジナル性ある容器、開栓時に出る音を意識したキャップなどが特徴。宇多田ヒカル起用の広告など、積極的な販促展開を実施している。

日清オイリオG「日清ヘルシーオフ」新CMで〝揚げたて〟強力訴求

日清オイリオグループは、揚げ物のカロリーが気になる人等に最適な「日清ヘルシーオフ」にて、二宮和也を継続起用した新CMを5月9日からオンエア。〝揚げたては、無敵だ。〟をキャッチコピーに、揚げたての美味しさを訴求している。

新CMは二宮和也がキッチンで「日清ヘルシーオフ」を使いから揚げを作り、食べるという内容。揚げる音や食欲をそそるきつね色のから揚げを美味しそうに頬張り、至福の表情で「（揚げたては）無敵だぁ～」と言うもの。

5月8日にはCM発表会を開催し、久野貴久社長は「昨年、『鮮度のオイル』シリーズを様々な料理にかけて楽しむ『かけるオイル』の提案を実施。二宮和也と西畑大吾が共演したCMも話題になるなど、50％増以上の成長を達成できた。今後ともリーディングカンパニーとして、食用油の様々なおいしさや楽しさ、驚きの健康機能など、消費者ニーズに応えた新たな提案で市場の創造につなげていきたい」と説明した。新CM披露の後、二宮和也が登壇。揚げたてのから揚げや、とんかつ、フライ、天ぷらを実食し、揚げたてのおいしさをあらためてPRした。

なお、実食時はうどんのフライや旬のクレソンの天ぷらなど、一風変わった揚げ物メニューも紹介された。トークショーの後、久野社長から大きなエビフライやから揚げ等があしらわれた、無敵の〝揚げ盾（あげたて）〟が贈呈、会場を盛り上げた。

「日清ヘルシーオフ」は、揚げ物の吸油量を最大20％抑制した国内初の家庭用食用油。カラッとした油切れの良さ、コレステロールゼロも特徴。

国分グループ 川口流通センター竣工

国分グループ本社は「川口流通センター開所式」を5月8日、同センターで行った。

開所式は国分グループ本社・國分勘兵衛会長兼CEOの挨拶に始まり大和ハウス工業・浦川竜哉常務執行役員の祝辞の後、テープカットを行った。披露宴は国分グループ本社・國分晃社長執行役員兼COOの「昨年は相模原にフードサービス向けセンターを開設し、1年で首都圏に同機能を有するセンターを川口に開設。

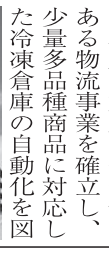
給食、高齢者施設、外食、メーカー対応

記者会見では国分グループ本社・土井弘光取締役常務執行役員低温フレッシュ・フードサービス統括部長が相模原流通センター概要を説明した。

川口流通センターを土井常務は「フードサービス向け物流を担う汎用型三温度帯センターを新設した」と述べ、センターの位置付けを「首都圏の給食事業者、高齢者施設、外食業態を中心とするフードサービス向け物流は、三郷第2センターと相模原流通センターの2拠点を中心に運営してきたが、三郷第2センターの業務を川口流通センターへ移管するとともに、より広範な取引先ニーズに対応する」と説明。センター開設の目的を「人手不足の対応や継続性のある物流事業を確立し、少量多品種商品に対応した冷凍倉庫の自動化を図るとともに取引先との協業戦略を推進し、より高品質な物流サービスを提供する」と述べた。

川口流通センター概要

［所在地］埼玉県川口市領家5・14・35
［規模］▽延床面積＝1万5438㎡▽温度帯区分＝冷凍庫4493㎡、冷蔵庫5168㎡、常温庫3524㎡、バース17、事務所508㎡



西山茂氏逝去（西山商事㈱会長、㈱前社長）

（西山商事㈱会長、前社長）5月15日、享年87歳。通夜は5月19日、告別式は20日に西山商事と西山家の合同葬で行われた。喪主は同社社長であり長男の西山徹氏。

故・西山茂氏は1931年5月生まれ。名古屋市工業中学校卒業後、48年に西山商事に入社。62年に社長に就任、食品配送の充実を進めるとともに、海苔・椎茸の加工工場を新設し自社ブランド「マルヤマ」を立ち上げるなど業容を拡大。97年に会長に就き、引き続き社業の発展に努めた。

中部の食品業界への貢献は大きく、中部食料品問屋連盟や愛知海苔問屋協同組合、愛知県椎茸商業協同組合、名古屋乾栄会など業界団体の要職を歴任。全国海苔問屋組合連合会から紫綬賞を受賞、名古屋乾栄会から感謝状を贈られるなど、大きな足跡を残した。

自然のおいしさ!!
エジマ ジャム
小島食品製造株式会社
本社　東海市名和町一番割中25
電話〈052〉603－3511
ジミー坊や

街角経済

人辞めて倒産心配

「人手の確保」が一番の緊急課題という小規模企業では、求人どころか逆に辞める人によって「人手不足倒産」に見舞われる心配が生じることもある。そこには働く人が今の好況をチャンスと捉えて、もっと安定した企業へ転職していくこともある。

積極的な企業活動に取り組むには当然、雇用の強化が必要だが、それは『賃金』の問題とも関係する。しかし生産性が低い企業にとっては、「好況下でも利益が出ない」といった厳しい競争環境のなかにもあるようだ。

小規模企業とは中小企業基本法の第2条によって『従業員20人以下、商業では同5人以下』と定義されている。この規模の2017年度の求人総数は約760万人で、1996年以降で最も多いという。

人の採用の難しい今は、働く人が退職するタイミングともなる。企業は採用活動と退職予防対策を間違えないようにしたい。

（大橋隆士）

ペットを通じて地域社会とのコミュニケーション
あらたグループ
ペットフード・用品の総合商社
ジャペル株式会社
本社 〒486-0802 愛知県春日井市桃山町3-105 TEL0568-85-4111(代表) FAX0568-85-4251